

令和7年度 大田区立安方中学校 自己評価 報告書

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄																					
								評価人数	コメント																				
生予個 き測別 目力難 標をな 1 育成来 社未 会来 すを 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力を育成している。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	生徒が予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力の育成を目的に、体験学習を含めたキャリア教育を推進している。生徒は落ち着いた学校生活を送っており、積極的に活動している。運動会や安方フェスティバルなどの行事や1年生の移動教室、2年生の職場体験などを通じて、今後も生徒が自己肯定感をもって他者と協働し将来を拓いていくよう、多くの体験を図っていく。「全教育活動を通じて、将来の進路や生き方について考える機会がある」について、生徒の肯定的な回答が91%、「自分は、学校のきまりを守って学校生活を送っている。」については、生徒93%・保護者94%である。 生徒の生きる力の一つである情報技術についても「ICT教育推進授業モデル実践校」として培った、タブレットによる授業実践例を活用し、学習者用端末を用いた授業を常態化し、学習の充実を図った。「自分は、タブレットを活用して学習を進めている」は生徒の回答は89%である。タブレットによる調べ学習、意見交換や学習発表、アンケートの回答なども行い、生徒はICT機器を学習のツールとして、日常的に活用している。今後も生徒の生きる力の育成のため、生徒の情報活用能力を高めていく。	A 12 B 1 C 0 D 0	●部活や学校行事で、コミュニケーション能力向上ができています。 ●生徒は落ち着いた学習生活を送っており、タブレットを利用した授業も活用されていると感じた。 ●落ち着いた生活している様子で、来校するたびに感じられる。																				
										お世お 界別 目 た つ 標 担 な 2 う が 人 材 国 際 育 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力し合いの態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しむながら会話を増やす機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心身の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	「英語数学の少人数の授業はわかりやすい」について、肯定的な回答は生徒88%で、「総合的な学習の時間では、各テーマに応じて考えをまとめ発表している」も88%であり、例年に続き高水準であった。今後も生徒理解に努め、英語力やコミュニケーション能力の育成を行う。 また、学旅行や社会科見学の校外学習において、総合的な学習の時間を用い、日本の伝統や文化についての学習や校外学習当日の体験・見学活動の調べ学習を行い、日本文化を尊重する心や国際感覚の醸成を図っている。 各教科や特別な教科道徳において、現代社会の様々な課題に対して考え、持続可能な社会に向け行動する力の育成を行っている。ただ、個々の教科における対応であるため、今後は各教科横断的に計画し、継続的な学習を図っていくことが課題である。	A 7 B 6 C 0 D 0	●まだまだ実体験として海外で生活する機会が少ないので、せめて国内で外国人と話をしたいと思っています。 ●英語・数学の授業がわかりやすいと回答している生徒が8割おり、目標に届いていると感じた。 ●国際化は避けて通れないので、交流が促進されることを期待しています。 ●外国語教育について国際社会につながるよう、教育を十分に行って頂ければと思います。										
																				た一人 人別 の 目 標 礎 り 3 が 個 性 力 と 能 力 を 育 成 し 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	「特別の教科道徳では、資料などが工夫されたりして、充実している」では、肯定的な回答は生徒88%、保護者は85%である。道徳授業地区公開講座では、大学教授を講師として招聘し、教員の道徳授業力の向上を図るための校内研修を毎年実施している。 「授業はわかりやすく、充実している」は生徒の回答が88%である。ICTを含めた授業の工夫により、習熟度に応じた指導や個に応じた学習が図られていると考える。また、生徒の基礎学力の定着、学習習慣の定着、タブレット使用の恒常化をねらい、毎週末にタブレットに課題を配信し、家庭学習として取り組ませた。 さらに校舎改築に伴い、学習室や多目的室を活用した放課後の学習室開放を毎日行い、長期休業中や土曜補習教室としても実施している。生徒の学習に対する意識の醸成や主体的な学習環境の構築、放課後などの居場所づくりなど、多方面に影響や効果があると考える。 「自分は基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている」は生徒の回答が86%である。学習環境では校舎改築工事や移転により、生徒への負担を強いているが、学区小学校の施設借用などにより対応している。 給食の充実も本校の特色であり、「自分は、給食の内容や献立に満足している」は生徒の回答が88%である。毎日の献立を「通信」として各学級へ配布、月2回「食育だより」の発行、毎日のメニューボードの作成、行事などのコラボ給食など、多様な啓発活動を行った。また、保護者や地域教育連絡協議会対象の「給食試食会」を実施し、保護者・地域に向けた食育活動の周知も図った。 区定例の年4回の小中一貫教育の日による研修会や情報交換会はもとより、近隣小学校との連携や情報共有を適時行い、円滑な連携した教育を図っている。	A 12 B 1 C 0 D 0	●中学生活はとも思いつく残りの事ができていて思われます。 ●授業以外の活動や部活にも積極的に取り組む生徒が多く、適切な評価である。 ●給食への熱心な取り組みに感心しております。家で食べないものも給食では食べている様子で、献立の工夫も素晴らしいです。 ●道徳の授業はわかりやすいかと思うが、生徒の姿を見ると安心感がある。体育施設が完全に使えない中で、工夫して使用しているのがよくわかる。 ●「授業はわかりやすく、充実している」と答える生徒・保護者が多いのは素晴らしいと思います。 ●地域とのコミュニケーションが図れるような4地域を行って下さい。
自個 分 別 の 目 標 5 を い き 支 援 し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生活するための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している」は、肯定的な回答が生徒83%保護者92%であり、「学校における自分の役割(活躍の場面)があり、居場所があると感じている」は、生徒89%、保護者90%である。また、「先生は、生徒の悩みや相談ごとなど、よく聞いてくれる」は、生徒の回答が88%である。本校は生徒の自己肯定感の伸長を目標として、教師と生徒の関係づくりを進めている。また、学級活動、生徒会活動、部活動を中心とした生徒の「自主、自立性」を育てる教育活動を積極的に進め、様々な活動を通じて、生徒の達成感や自己有用感を高めている。 また、学期ごとに学級状況調査やいじめ調査を実施し、早期対応や解決を図っている。また、隔週定例の管理職・養護教諭・各学年の特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー・特別支援教室専門員による教育相談部会を実施し、配慮や支援が必要な生徒の情報共有を図るとともに、効果的な支援や関係諸機関との連携を協議実践している。 課題としては、本校のみならず全国的な課題である不登校生徒の増加である。不登校支援員による毎日の別室登校教室の開室やオンライン授業の実施のほか、スクールカウンセラーによる面談をもとに、適宜指導教室や教育センター等と今後とも効果的な連携をすすめ、改善に努める。	A 11 B 2 C 0 D 0	●校長先生の思いが詰まった学習室が、成果を上げてくれるのを期待しています。 ●支援が必要な生徒さんにも、手厚くフォローしている様子です。 ●学校全体が落ち着いたというのは、来校するたびに感じています。 ●不登校やいじめなど学校で考えて、道徳授業など取り入れてはと思います。																				
										安楽個 人教 目 的 創 造 的 な 学 習 空 間 と 安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	「安方中学校に入学(在籍)して良かったと思う」は、肯定的な回答が生徒95%保護者の回答は92%であり、前述した「学校は、外部からの学習支援員等を導入したり、図書館等の効果的活用を行ったりする等、教育環境の整備を進めている」は、生徒87%保護者は88%である。今年度の学校経営の重点は「校舎改築工事下での最適な学びを確立し、挑戦と進化を止めない」であり、それに伴い管理職と教職員が一体となり、学校環境の整備と安全の確保を実施した。 毎月の避難訓練の実施やオンラインによる全校安全指導を行い、避難訓練においては、池上警察署と連携し、不審者侵入対応訓練を行っている。また生徒の安全を図るため、薬物乱用防止教室やセーフティ教室も行った。 また、昨年度に引き続き今年度も校舎改築工事のため、校庭で運動会が実施できず、蒲田西特別出張所の支援によりふれあいはすぬまにて開催した。運動会練習もふれあいはすぬまで行い、練習のための学校とふれあいはすぬまの生徒の移動や練習では、PTAボランティアが見守りを行い、生徒の安全を図った。	A 12 B 1 C 0 D 0	●残念ながら、当面グラウンドが十分使えませんが、その他はともいい状況だと思います。 ●安方中へ入学して良かったと思ひ、そのように意見ができるのは、素晴らしいことだと思います。										
																				学地学 校校 校別 を コ ミ ニ テ キ ョ ウ リ ニ マ シ テ 地 域 の 核 心 と し て 協 働 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどとの連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:90%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている」について、肯定的な回答は、生徒・保護者ともに92%で、昨年度とほぼ同じであった。昨年度に引き続き今年度も、年3回の学校公開、運動会や安方フェスティバルといった学校行事に、保護者参観ができるよう計画した。学校行事を参観する機会を増やしたり、PTAの行事ボランティア募集をした結果だと考えられる。学習室や多目的室を活用した放課後の学習室開放についても、PTAボランティアが見守りを行い、運営の支援をしている。今後も、工夫しながら、保護者、地域の方々の参加や学校の公開の機会を行っていく。 「学校だより、ホームページ、学年通信などは、学校の様子を知らせている」について、肯定的な回答は昨年度に続き、生徒94%・保護者は96%と高い数値であった。学校・家庭・地域との連携を深めるため、学校ホームページに、生徒の様子を毎日発信している。校外活動や部活動、大会の様子なども、可能な限り掲載している。保護者からは、学校の様子が分かる好評であり、肯定的な意見を多くいただいた。今後も学校ホームページを最大限に活用し、本校の教育について広く地域に広め、「地域に根ざした学校」として信頼を得られるよう、日々努力を続けていく。	A 9 B 4 C 0 D 0	●地域の人々との交流できる機会を増やし、地域に支えられているという事を感じられる生徒がひとりでも増えてくれることを希望します。 ●学習室の見守りが、地域の方ができる機会には、学校と地域の双方に良い事だと思います。 ●学校だよりの校長の文章がわかりやすく伝わるので、毎回楽しみにしています。学校見学の時の話も生徒と話を出来る、素直に話せる。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。